

© 2023 maki	※ 無断複写(転用・転載)はご遠慮ください						
フェーズ	ユーザーがとる行動	ユーザーの行動のゴール	ユーザーの感情・心理のゴール	解決すべき問題	機能	機能ゴールに導く工夫	メモ
1.自分自身の設定	設定を五月雨で入力する						
		- ジャンルを登録する	- 挫折しにくくなった - ジャンルを決めれるようになった	- 情報収集の結果を受けて学習するフェイズに入るために何が 必要かわからない - 自分の好みの専門ジャンルをどうやって決めたらいいかわから ない - 変わったら更新したい	- 専門にするジャンルの登録をできるようにする。	- さみだれ入力可ににして一度に入力する負担を減ら す - 後で入力できるようにする - 初学者には右のメモのような説明が必要	- 挫折しないための機能 - 決め方はなんでもいい(新書や図録など)
		- 推しの書き手師匠を決める - 推しの読み手師匠を決める	- 挫折しにくくなった - 勝手に師匠を作れるようになった	- 気になった人を勝手に師匠にして師匠の型を参考に進みたい - 変わったら更新したい - 推しの決め方がわからない - 推しを決める理由がわからない(挫折しないため)	- 推しの書き手、推しの読み手を登録できるようにする(URL含む)	- さみだれ入力可ににして一度に入力する負担を減ら す - 後で入力できるようにする - 初学者には右のメモのような説明が必要	- 挫折しないための機能 - リアル師匠でなくていい - 興味関心が似ていたら、遠くの人でも、身近な人 でも良い
2.本の登録							
	タイトル、著者名、出版年、出版 社の入力	- タイトル、著者名、出版年、出版社の入力	- 出版年や出版社まで入力するのはめんど くさい		- タイトル、著者名、出版年、出版社の入力 - 論文やweb記事も登録できるようにする	- 乱読状態時は、アウトプットするかわからないので、 さみだれ入力をよしとする - 簡単検索入力ができたらなお良し	
	総ページの入力(精読への評価 に必要)	- 総ページの入力		- ある本のある章だけを読みたい人、一冊まるまる読みたい人が いる	- 読みたい本の総ページを簡単に入力できるようにする - 必ず入力してもらいたい	- 星評価なみに必要な情報。 - 自分にとって大事な本かどうかを評価するために必 要な情報と伝える	
3.入門		- 大まかな基礎知識を得るためだけに、絵本、 自伝、中高生を相手にした入門書(簡単順)を 2冊、恥ずかしがらずに読む		- いきなり難しい本を読み続けてしまう人を減らしたい。 - 簡単な本は恥ずかしいことを伝えたい	- お知らせをつける		
4.最初の乱読	画像を登録する(1~複数枚)	- 1ページ目の感想を書く			- 最初の投稿を可視化する		
5.乱読 乱読メモ投稿	乱読して画像を投稿する	- 精読する(自分にとって価値がある)本をみつ ける。引き出しが増える					
		- 気になったところ、覚えておきたいところをパ ンシャパン写真をとる	- 楽しい、面白いという気持ち		- 利用者にとって大事な時間。介入しない。		
			- キャプチャの数だけ自分の好みがわかる。 - 自分が面白いと思うポイントがなんとなく わかってくる。		- 複数枚の投稿ができる - ドラッグ&ドロップ	- 写真を撮ることで得れる利用者にとっての利益を最 初にアピールしておく	
					初めて気になったページ 初めての登録ページをわかるようにする	- 最初の1ページがぱっとみてわかるようにする	
6.読む/読まないの 評価	聞かれたら、読む/読まないを選 択する	- 自分に合わない本を読み続けない決断をす る	- 少し複雑。 - 後ろめたさがある	-「読む」ためには、「読まない」選択肢が必要	- 今回は対応しないが、将来必要ならアーカイブボタンを作る	- 読まない勇気を応援する - 今の自分ではなく将来の自分にとっておくことを伝え る - 精読は勇気ある進展と褒めてあげたい	
7.再読への誘い							
	メモの数によって自分にとって大 事な本を認知する	- 自分にとって大事な本かもしれないことを認 知する			- メモの数を表示。 - メモの数と数が多い本を目立たせる - メモの数順、登録順に表示させる	- ぱっと見てメモの数と自分にとって大事な本がリンク していることを理解できるようにする	
8.読み返し	乱読メモの読み返しをする	- 自分がどんな言葉に惹かれ、テーマが好き かを認知し出す	名文をキャプチャし、読み返していくうちに、 「型」を覚える。短く、鋭く、重い言葉が、何を モチーフに、どんな形容で示されるか、わ かってくる。同時に、自分が何のテーマにひ かれ、どんな言葉に刺さり、衝撃を受けるの か、わかってくる。		- 乱読メモを読むことで自分がどんなモチーフや言葉に刺さり、衝撃 を受けるのがわかってくることを伝える - wakaran、刺さるなどをタグ化する？	- 自分の「好き」を見える形に整える	- 癖や好みが数値で出れば良いが、なかなかそう はいかないので自分で確認してもらうしかない。
9.精読への評価	精読に進んでいいかの評価を受 ける。	- アプリの評価を受けて、精読に進かどうかの 判断をする			- 乱読終了後、画像メモが本の1/4を超えるならもう一度通読。全体 を把握する => 精読に移る - 乱読終了後、メモが本の1/4を超えない、1/8以下、かつ一番多いメ モの本が精読基準	- いつでも乱読に戻れることを伝える - 精読乱読の評価基準を伝える	
	精読に進めなかった場合、通読し て全体を把握する				- 次に読んだ時は写真の数が減る => 画像が半分(1/8以下)に なったら精読に移る基準		
10.精読		- アウトプットに向けた問題設定の基盤を作る			- 精読でやることを伝える	- アウトプットに向けた問題設定の基盤を作れるよう になるためにいくつかのステップがあることを伝える	
	精読フェーズに移っても乱読に 戻ったり、本をじっくり読んだりす る	- 乱読の場合は気になった部分の画像を投稿 する - 精読の場合は新たな気づき、自分の意見をメ モに投稿する					
	本の核となる時代背景や地域を 入力	- 本の核となる時代背景から読む - 小さなアウトプット		- 精読に慣れている人はやっていると思うが、いきなり要約したり と精読を始めるのは難しいので小さくアウトプットする必要がある	- 本の核となる時代背景と地域の入力欄	例 - 1790~1799年(『情歴』pp184-185) - フランス	
11.精読メモ	著者のプロフィールを入力	- 著者から読む - 小さなアウトプット		- 上に同じ	- 小さなアウトプット - 著者のプロフィール入力欄	- 著者の生きた時代や土地から作品を理解する	- 著者が生きたのはどのような時代で、同時代にど のような作品があったのか
	Better: つまり、しかしなどに注目 し著者の意見、事実、仮説を抜き 出す	- それは事実か、それは意見かを常に意識す る	- 繰り返すことで著者の意見に対し、自分の 意見が出てくる		- 気になった部分を抽出しながらアウトプットをしていこう - 意見・事実・仮説の入力欄	- 最初は自分の意見が出てなくても繰り返すことで出 てくようになります	
	Bad: つまり、しかしなどに注目し 著者の意見、事実、仮説を抜き出 せない	- 言葉にできないことを認識したら、もう一度乱 読キャプチャを読み返す(知識よりも考える力 の方が大事なため)	- 書こうとすると、たんに「よかった」だけでな くなる。なぜ「よかった」のか、ほかならぬ自 分自身が「いい」と感じたのはどこかを、否 が応でも考えざるをえなくなる。	- 言葉にできない	- 自分の意見が少ない場合、乱読に戻ることを促す - 少ないを定量化できないか	- 言葉にできているかどうかを可視化する。言葉に出 来ない場合は乱読に戻る。そうすることで少しずつ自 分の言葉が増えていく	
12.要約	章、節ごとにざっくり要約する	- 要約する		- 要約が難しい	- 要約見本ありのテキストエリア	- どういう内容の章だったんだろう？	
13.乱読又は精読 に戻る	乱読・精読メモを読み返している と、自分の問題意識のために元 の記述を読みたくなる。	- 元の記述を読み返す必要を感じたら読み返 す。					
	元の記述を読み返す	- 精読メモの量が増えて、いつの間にかどんど ん自分の意見の方が多くなる			- 自分の意見の数を可視化		
14.アウトプットへ	アウトプットに十分な量の自分の 意見があることを認知する	- アウトプットへ	- 読んで感じた「好き」を発散させる。その作 品のどこが好きになったのか、なぜ自分が それを「好き」だと感じたのかを掘り下げる。	言葉にできる	- ここからはアプリで対応しない	- メモを元になぜ面白いと感じたのかを掘り下げ、独自 の問題設定を持ち、文章をつなげていく必要があるこ とを伝える。	

© 2023 maki	※ 無断複写(転用・転載)はご遠慮ください						
フェーズ	ユーザーがとる行動	ユーザーの行動のゴール	ユーザーの感情・心理のゴール	解決すべき問題	機能	機能ゴールに導く工夫	メモ
15.バリエーション	声で読む	- 目と頭だけでなく、声と頭で読む	- 自分の声だけでなく、他者の声を通して読むことを楽しいと思う - 散歩中、寝る前などどのような状況でも音声で読むことができて嬉しい	- 目以外の読み方で楽しむ - どんな状況でも読むことができるようにする	- OCR化した文章を音読させる - ダウンロード機能をつける	- 忙しい人でも合間に耳で読める。 - 楽しんで読めるよう声にこだわる	